

令和7年度 第5回 伊勢市観光振興基本計画推進委員会議事録要旨

日時：令和8年3月16日（月）15：00～16：45

場所：伊勢市役所 東館5階 5-3会議室

出席者：【委員】板井、澤村、久村、谷、音羽、川上、藤原、前田、山本、高橋〈敬称略〉

【伊勢市】佐々木、小林、太田、高橋、池山

【事務局】（伊勢市）佐々木、小林、東、中村、太田、池山、西尾、高橋

（委託業者：JTB）小島、吉口、藤田、古舘

1. 開会

挨拶(委員長 板井委員)

令和7年度第5回伊勢市観光振興基本計画の推進委員会を開催する。

委員・事務局紹介、出席者報告

委員 17名のうち出席者 10名となり、過半数が出席していることから、「伊勢市観光振興基本計画推進委員会規則」第4条第2項の規定により、本委員会が有効に成立していることを確認。

2. 議事

(1) 伊勢市観光振興基本計画の策定について資料①②③

資料③（伊勢市観光振興基本計画【概要版】）に基づき、概要を事務局（JTB）より説明

<質疑>

○14ページの「伊勢御遷宮委員会のコピーライト（C）」の半角を修正し（他箇所も同様）、13ページの脚注のアスタリスクは削除する。（委員長）

→説明中に判明した修正箇所の他に、修正点があれば事務局までご連絡いただきたい。（伊勢市）

○表紙の緑色が指定の色と異なって見えるため確認を要する。また、本編の目次には、外宮・内宮の画像があるが、概要版では二見の画像のみとなっているため、本編と同様に画像を挿入することを提案する。4ページのDMOの下にホームページのアドレスが記載されているが、二次元コードの記載を提案する。その他、6ページの三重県の「10年後のめざす姿」の出典資料の記載が漏れている。（委員）

→確認して検討、修正する。(伊勢市)

○13 ページ (1) 基本理念の出だしの「古くから『日本人の心のふるさと』と呼び親しまれてきた」の出所を懸念している。この表現自体は比較的新しい表現ではないか。神宮のホームページには「2000年の歴史を有し、日本人の『心のふるさと』」という表現となっている。(委員長)

⇒作家・吉川英治が伊勢神宮を表現した言葉がおそらく始まりである。そのため「日本人の」は後付けであり、戦後の表現である。慎重になるのであれば、「古くから」の記載を削除し、主語を「伊勢市～」と「神宮～」で分けた方が良く考える。(委員)

→検討する。(伊勢市)

○11 ページの総合スコアが偏る理由は何か。訪問意向は高いが、再訪意向・総合満足度が低いのはなぜか。(委員)

→決して低い結果ではない。多くの観光地は平均(青い線)の内側のスコアになる。伊勢のグラフは、訪問意向・訪問経験が極端に高いと考えられる。(JTB)

⇒グラフの下にその旨の文言を追加した方が良い。(委員)

○本資料は議会に提出するのか。(委員長)

→皆様の承認を得られれば策定とする。(伊勢市)

⇒細かい表現については副委員長と確認する。各委員は内容について承認で良いか。(委員長)

⇒承認する。(全体)

(2) 令和7年度事業の検証について資料④⑤

資料④,⑤に基づき、概要を事務局(伊勢市)より説明。

<質疑>

○資料⑤のグラフは目標値と実績値が羅列されており見え難い。同じ年度の目標値と実績値を隣り合わせるなど、見せ方を工夫してほしい。(副委員長)

→検討する。(伊勢市)

○7 ページ基本方針3において、日帰りは入場料が前年に比べ同額以下であるのに対し、宿泊は入場料が増加しているが理由は。(副委員長)

→入場料は有料観光施設(水族館など)の合計額を指しており、宿泊客における有料観

光施設への立ち寄りが増えている。(伊勢市)

○9 ページの再訪意向率は毎年 100%に近く、数値が減少した際の図る指標としては良いと考えるが、あえて基本方針に入れる必要があるか。(副委員長)

⇒この指標は伊勢市観光振興基本計画の基本方針⑤にも記載がある項目である。新計画では伊勢志摩地域の再訪意向も掲載されており、比較資料として機能しており、残してよいと考える。違うアンケートデータを使用しているため、説明の補足が必要と思われる。(委員長)

○10 ページの市民の満足度が令和7年度に減少したコメントの記載がない。また、グラフ下2つ目の「目標未達ではあるものの、～市民プライド・誇りは高まってきていると考えられる」の考えられる理由の記載がないため説明する必要がある。(委員)

→市民の満足度が高い令和6年度はオンライン調査を実施した。令和4・7年度は調査表を郵送し、70~80代の方に多く回答していただいていたが、令和6年度は30~40代から多く回答を得たため、回答する年代層が大きく異なり高まったと考えられる。(伊勢市)

⇒その理由を記載した方が丁寧である。モニタリング実施自体も年によって波があるため、その記載が必要と考える。(委員長)

○1 ページの基本方針別達成率の説明文に関して、結果と説明を入れ替えることを提案する。(委員)

→検討する。(伊勢市)

○6 ページのホームページのセッション数はAIが主流化により減少が考えられる。情報提供としてホームページを整備することは必要だが、今後4年間を観察し指標を検討する必要がある。(委員)

⇒検討している別指標はあるか。(委員長)

⇒SNSなどのデータを検討している。(委員)

○10 ページの令和6年度の年代別データは記載できないか。実績値を確認することが重要であるため、グラフを重ねるなど検討できないか。(委員)

⇒補足の記載は可能であると思われる。検証の場を設けているので、柔軟に対応していきたい。(委員長)

3. 報告

(1) 令和8年度観光関連事業概要の概要について資料⑥

資料⑥に基づき、概要を伊勢市より説明。

4. 意見交換

○地域 DMO 公益社団法人伊勢市観光協会による「伊勢市における観光地経営戦略プラン（令和8年度～令和11年度）」概要を委員より説明。

○お木曳行事が始まるが、懸念事項は伊勢で働く全体数が少ないことである。お木曳で帰省する伊勢出身者に伊勢の良さを再実感してもらい、伊勢で働いてもらうことが願いである。（委員）

○伊勢市民や事業者と観光振興基本計画との親和性を高め、働く場所を提供する。また、雇用数が少ないため、製造業などを増やす施策などを検討する。（委員）

○働く場所が少なく、起業する人も減少している。従業員を抱えることの困難や、飲食業での従業員の確保が課題である。今後どのような形で支援していくか、委員からも意見をいただき反映していきたい。（委員）

○市民の満足度は高いが、まちの景観に表れていない。まちづくりの視点が不足している。河崎地区は閑静だが、そのことが宿泊者の満足度を上げている。インバウンドが20%の宿泊施設もあり、目的をもって来訪している。亀山や伊賀地域の「歴史まちづくり」のように、エリアの特性を生かした観光まちづくりが重要である。神宮はもちろん、我々の生活文化にも価値があるため、その意識を根付かせ、まちの受け入れ態勢を醸成する必要がある。観光振興基本計画を作るだけでなく、市民に観光まちづくりの本質的な取り組みの姿勢を見せることが重要である。（委員）

○2月連休時、外宮駐車場に入るのに明倫小学校まで車列が伸びていた。前年に比べて12月29日の交通量は倍になった。今後、市民から交通渋滞に関する不満が予測される。観光リテラシーが高い人をターゲットにし、遷宮までにブランドデザインを進める。外宮前に駐車場拡大の予定はない。バス停の待機列が長く、内宮まで歩く人が増加している。今後は徒歩、自転車利用者向けの施策や、バスの優先道路化などを考える必要がある。（副委員長）

○誘客の重要性は承知しているが、オーバーツーリズムを懸念している。本計画に安全安心の快適な整備についての項目があるが、事業について具体的に見えていない。3月19日に宇治防災倉庫が完成するが、前回のお木曳以降、住民が不安に思い実現できたものである。危機感は薄れていくため、20年のサイクルをきっかけに、伝承の意識を持つべきである。安全にお迎えできる伊勢市を目指し取組を進める。(委員)

○令和8年度以降も本計画推進の検証のため検証部会として委員にご協力をいただきたいので年に複数回出席のご協力をいただく可能性がある。また、伊勢市は宿泊税の導入を検討しており、宿泊税を活用した事業の検証についても伊勢市観光振興基本計画推進委員会としてご協力をいただきたいと考えている。今後の進捗により改めて提案させていただきます。(伊勢市)

○新年度となるため、各所属で異動等の情報があれば事務局へご連絡をいただきたい。
(伊勢市)

5. 閉会

伊勢市産業観光部長から委員へ計画策定に関するお礼の挨拶。

(以上)